

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年3月18日

モアテック株式会社

鋼材などの切粉を短くせん断する破砕機（クラッシャー）や、それに付随するチップコンベアなどを製造するモアテック株式会社。顧客ニーズに応え、グローバルに展開している代表取締役社長の蛭川裕規氏に今後の経営方針などを聞いた。

Company Data

企業名：モアテック株式会社

代表者：蛭川 裕規

住所：半田市川田町 175 番地

電話：0569-25-2266

URL：<http://www.moretech.co.jp/>

紹介金融機関：半田信用金庫



顧客目線と環境目線の商品開発

当社は、現会長で私の父親である蛭川尚宏が親族の会社から独立して、2000年に半田市瑞穂町で創業しました。当初は、運転資金や生産設備も乏しい中、お客様目線での使いやすさを追求した製品開発に努め、破砕機（クラッシャー）を完成させました。当社で製造した破砕機は特許を取得した技術を用いており、高い耐久性とメンテナンスのしやすさから取引先からの信頼と反響を得て、受注を伸ばすことができました。



現在、当社では、主に工作機械から出る切削端材を運ぶチップコンベア、それに付随する切粉を破砕する破砕機、クーラントろ過装置の3分野を主力に製造しています。

破砕機やチップコンベアは元々、切削端材を資源として再利用（リサイクル）しやすくすることを目的に開発してきました。

切削端材を細かく粉砕することで、廃棄物の大きさを減容でき、運搬するトラックの往来回

数が少なくなるため、排出ガスの削減にもつながります。そのため、当社の事業は、多くの企業が取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）にも合致するものと考えております。創業当初は、機械メーカーの下請けとしてスタートしましたが、技術や品質に磨きをかけ、現在は設計から製造保守点検サービスまでトータルでサポートできる機械メーカーとして事業を行っています。新規開拓を進め、農機具や釣り具、自転車部品などの様々な業種の顧客と取引しています。

早期の海外進出

創業翌年の2001年に海外子会社としてタイに「タイ MORT CO.,LTD」を設立しました。これは顧客の海外進出に追随する形でしたが、設立時は2000年のITショックが起きた翌年ということもあり、たいへん厳しい経営環境の中での進出でした。一方、競合他社がまだタイに進出していなかったこともあり、顧客の信頼を早期に獲得できたことで、トップシェアを獲得することができました。

現在ではタイの拠点アジア地域を中心としたグローバル展開に向けてのハブとなっているほか、日本とタイで相互に製造を補完しあうことでBCP対策（事業継続性）にも貢献しています。

危機また危機を社員一丸創意工夫で乗り越える

当社が危機を迎えたのは、2000年のITショックや2008年のリーマンショック時です。売上高が半減した時期もありましたが、社員が一丸となって協力し製品力を向上させ、他社との差別化を図りました。また、営業体制を強化し、それまでの直販体制に加え、商社などへの販売を開始し、販売チャネルを拡大しました。こうした取組みにより、危機を乗り越えることができました。

危機時に得た経験は、現在の約30名の社員にも受け継がれています。当社では、「最少の人数で、最高のものづくり」を経営方針に掲げており、常に業務の見直しを図り、日々創意工夫をモットーに取り組んでいます。

また、私自身が大切にしているのは「平常心」です。平常心は、適確な判断・指示をするために欠かせないと考えており、これからの危機に対しても、社員の創意工夫と、平常心による適確な判断・指示で乗り越えていきたいと思っております。

さらなるBCP対策として移転も視野に、新たなビジネスモデルを検討

本社や工場が建つ現在地（川田町）は、衣浦港に向かって流れる川沿いにあり、巨大地震による津波の被害が懸念されます。また周りの橋がネックとなり、社員らが避難できなくなるケースも考えられます。事業を継続させ、何より社員の安全・生命を守るBCPの面からも、本社と工場を移転することを検討しています。

また、当社の主力製品は、技術力、コストの面からも、他社



と比べ、優位性を保っていますが、将来性を考え新規事業にも乗り出したいと考えています。いくつか検討中ですが、例えばトウモロコシの皮やひげなど廃棄されている残さを有効活用した1次産業へ還元するようなビジネスモデルの構築を目指していきたいと考えています。